

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



2014年のワールド・コラボ・フェスタにて 東ティモールの人に囲まれたステファニさんの特大パネルを背景に表彰される石原バージさん

特集

今だから振り返る レナト賞

2004年から表彰してきたステファニ・レナト賞。
受賞者の活動が新聞に紹介され、レナト賞が大切
にしていた理念が広く市民に共有されました。



今だから振り返るレナト賞

新型コロナウイルスが流行し、世界情勢がさらに不安定になった今、ステファニ・レナトさんが重視していた理念を振り返り原点にたつことが重要です。名古屋NGOセンターの初代理事長だったステファニ・レナトさん。常に弱者の側に立って人間としての尊厳を守るための行動をした方でした。

レナトさんが2003年に不慮の事故で亡くなられたのを受けて、翌2004年からレナトさんと同じ思いに基づく活動をしている個人・団体を「ステファニ・レナト賞」として表彰することとしました。運営費や副賞には多くの市民のみなさまのご寄付を当てておりましたが、2020年度で終了することになりました。

今号では、当時のレナト賞運営担当者や受賞された団体のお話を伺い、レナト賞を振り返ります。

ステファニさんの遺志が、 次の世代に引き継がれていくことを願って

ステファニ・レナト賞実行委員長
小池康弘

2003年10月にステファニさんが東ティモールの地で亡くなった。当時、長期出張で米国の大学にいた私は日本に帰ることもできず、何ともいえない焦燥感を解消できないまま、2004年3月に帰国した。直後に名古屋NGOセンターから「ステファニさんの名を冠した賞を創設することになったので、その実行委員会に加わってもらえないか」との打診があり、二つ返事でOKした。

最初の重要な仕事は3つ。第一は「ステファニ・レナト賞」の趣旨や目的を設定することである。NGOであれ任意団体であれ、称賛される活動をしている団体はいくらでもあるが、私たちは、目立たなくともコツコツと続けている活動を盛り上げ、社会に知ってもらうことを重視した。こうして「人間の尊厳を守る活動」「地道な活動」「頑張っている中小の団体や個人」という観点から表彰の趣旨を整理した。実は、海外から「ノーベル平和賞級」の実績を持つ候補者を推薦されたこともあるが、あえて選外としたのはそれが理由である。

第二の仕事は、選考の方法とガイドラインを決めること。これについては、活動の理念や目的、普遍的な意義、継続性と実績、今後の発展性と受賞した場合の社会的インパクトを重視することにした。そして第三は、これが一番の難題だったが、副賞を出すための基金をつくり、寄付を集めることだった。私は「どうせやるならケチくさい賞にはしたくない。副賞は30万円にする!」と大みえを切ったのだが、本当は自信がないまま寄付集めを開始した。ところが「求めよ、さらば与えられん」である。NPO法人アルシュ(自立を支援する会)、東ティモール子ども募金(当時)、株式会社豊田通商(特に武山会長(当時))をはじめステファニさんとつながりのあった団体や企業だけでなく、多くの個人からの寄付があつという間に集まったのだ!奇跡である。いろいろな意味でステファニさんの名前が多くの人々の心に残っていたことを感じた瞬間であった。



アジア保健研修所で賞状を受け取る林事務局長(右)

設立して10年を迎えた2014年12月には名古屋能楽堂で、“ステファニ・レナト賞記念イベント”を開催することができた。ステファニさんを写真でしか知らない若者たちに向けて、歴代の受賞者から「現地に飛び込んで、見て感じたことを大事にしてほしい」といったメッセージが贈られた。このイベントを集大成として10回目を区切りにステファニ・レナト賞を終了する予定だったが、惜しむ声やまた支援してくださる方々の力で、引き続き行うことが可能となった。

2021年1月に最後となる“ステファニ・レナト賞の表彰式&受賞者記念講演会”を予定していたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できなかった。そこで、受賞団体には個別に表彰盾、表彰状、副賞目録の授与を行うこととした。2021年3月に日進市にあるアジア保健研修所を訪問して手渡したときには、ステファニさんの思い出話に花が咲いた。

ステファニ・レナト賞は一定の役割を終えたが、常に弱者の側に立って人間としての尊厳を守るための行動をしたステファニさんの遺志が、次の世代に引き継がれていくことを願っている。

受賞団体の声

設立のきっかけはレナトさんとの出会いだった

特定非営利活動法人 外国人医療センター(MICA) ～2008年度受賞～

1998年の団体設立のきっかけは、瀬戸市であった、移住労働者問題の全国フォーラムの場で、ステファニ・レナトさんや杉本正次さんなどその活動に関わっていた人びとと、地元の医療関係者たちとの出会いだった。移住労働者の人びとの「医療の問題もたいへんだ」と共有され、この活動が始まった。

当初は、医療相談や総会の折などの集会などの活動が中心だったが、次第に県の外国人向けの医療情報のホームページや電話情報の作成、県下各地の医療相談会の開催、さらには、外国人向けの介護ヘルパー教材の翻訳なども。新しいところでは、健康保険や雇用保険・労災保険・介護保険や年金制度についての、日本語と英語を併記したガイドブックを助成金を得て作成・配布もした。

活動の開始から24年が過ぎ、オーバーステイの方の相談が多かった状況から、今は定住する子どもたちの健診や相談、技能実習生などを中心とする労働者の相談・健診などが多くを占めるようになってきている。健康保険証を持っていたも、その意義や使い方を知らないケースも多い。



日本人が働く職場や学校では、法的に義務付けられている定期的な健康診断も、移住労働者の職場や「一条校」(学校教育法第1条で定められた狭義の学校)ではない学校に通っている子どもたちにとっては、当たり前とはなっていない。県下には、ブラジル人学校はじめ大小さまざまな、外国ルーツの子どもたちが通わざるを得ない学校が存在するが、心電図の検査や胸部レントゲン撮影・尿検査や視力や聴力といった、健康診断を受ける仕組みから除外されている。公的な援助もほとんどない。

「ボランティアには恵まれている」が「財政基盤はいつもガタガタです」と、思わず漏らすスタッフの方の、移住労働者が「使い捨て」のようにされている状況は、「依然として変わっていない」との熱い言葉が胸に迫った。

(担当:中島正人)

根っからの助けびと 山田ロサリオさん

特定非営利活動法人日本ポリビア人協会 理事長 ～2017年度受賞～

受賞するまで、レナト賞のことは全く知らなかったそうだ。が、受賞した時にもらったステファニ・レナト氏について書かれた本を読み、氏の活動に深く心を動かされ、自分がしていることは彼の足元にも及ばない、もっとすることがあるはずだと力をもらったと言う。

授賞式後の三重に帰る車中で、仲間から「仕事を失って悲しんでいる女性がいる、その人の力になることはないか」と相談を持ちかけられ、始めたのが「アルパカプロジェクト」。アルパカ製品はボリビアの主産業となっている。ボリビアの女性は誰もが編み物に精通している。手編みの製品を作って販売することで、地域に暮らす女性の仕事を生み出すことができるのではないかとの発想だった。時期を同じくして、JICAや三重県からの助成金の話を持ちかけられ、苦勞しながら申請書を書き上げて、プロジェクトを立ち上げた。現在では、ネックウォーマーやマフラーを協会ホームページを通じてネット販売したり、近くの百貨店に出品するまでになった。

来日直後は、わからないことばかりで、何度も失敗をし悔しい思



津センターパレスにある日本ボリビア人協会オフィスの前で

いもたくさんした。でも、それが今の私の力になっている。お話を伺っている最中にも相談の電話が入る。いろんな人の相談に乗ることは私にとっての生きがい、大切なこと、大好きなこと、だから続けられると語るロサリオさんの顔は自信に満ち溢れていた。

レナト賞受賞をきっかけに、支援の輪がどんどん広がっているのを実感している。レナト賞に推薦してくださった土井さん(多文化共生リソースセンター東海)にこの場を借りて感謝を伝えたいとのことだった。

特定非営利活動法人日本ボリビア人協会
URL: <https://www.arbi95.com>

(担当: 貝谷)

レナトさんの思い出

大きな目をくりくりさせながら、大きな声で話す方だなあとというのが、レナトさんに初めてお会いした時の印象です。レナトさんはイタリア生まれのカトリック教会の神父さんです。でも堅苦しいところの一つもなく、いつも力のない者、弱い存在に心を寄せ、そのことを社会に訴えかけ、人々の関心を集める働きをされていました。その一つが、「ニカラグアに医療品を送る会(現:ニカラグアの会)」であり、また、イジメにあって死亡したブラジル人中学生エルクラノ君の家族への支援と日本の学校教育への鋭い批判でした。これらの話をするときは、舌鋒鋭く眼光を光らせ心からの怒りを表す口調になりました。

「ニカラグアに医療品を送る会」では寄付を集めるだけでなく、賛同する人々に声をかけ、メキシコ料理店に会員を集め交流の場を設けました。そういう場でもレナトさんはなかなかゆっくり腰を据えて話をするというのではなく、いつも何かしら忙しそうでした。

そして、様々な活動から知り合ったこの地域で活動する

人々に声をかけては、食事会を開くようになりました。場所はカトリック教会が管轄する「熱田働く人の家」という施設で、安い会費を集めて皆で食事を作ってナベなどをつつきながら交流しました。

レナトさんはニカラグアの会を土台にしながら、この地域で活動する人々をつなげ「第三世界交流センター(後の名古屋NGOセンター)」を設立しましたが、その二つの看板を掲げた事務所は、最初は小さな粗末な家の一室でした。レナトさんは現世での栄誉を求めることなく、弱い立場にある人々に心を寄せ、仕えることを信条とされていたのでしょう。神に仕える神父さんだから、と言うこともできますが、それ以上の何かが彼を突き動かしていたのでしょう。生き急ぐように駆け抜けていったレナトさん。忘れられません。



アジア保健研修所(AHI)
会報編集委員
斎藤礼子

ステファニ・レナト賞 過去の受賞団体・個人

受賞年	受賞団体・個人
2004年	国際子ども学校
2005年	ネパールの子ども基金
2006年	チェルノブイリ救援・中部
2007年	津山直子さん(日本国際ボランティアセンター南アフリカ支部・現地代表)
2008年	外国人医療センター
2009年	モアゼム ホセインさん(ダッカ、バングラデシュ、アイチホスピタル院長)
2010年	ACF JAPAN アジアこども基金
2011年	中村葉子さん(東ティモール・ディリ修道院・院長)
2012年	ティン サン ウーさん(ビルマの開業医)
2013年	スーダン障害者教育支援の会
2014年	石原バージさん(フィリピン人移住者センター代表)
2015年	松本雅美さん(南米系外国人学校・ムンド・デ・アレグリア校長)
2016年	名知仁子さん(ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会代表)
2017年	山田ロサリオさん(日本ボリビア人協会理事長) ※奨励賞:DIFAR
2020年	外国人ヘルプライン東海 ※特別賞:アジア保健研修所 ※奨励賞:ピースあいち、キャンヘルプ・タイランド、ニカラグアの会



国 際子ども学校(Ecumenical Learning Center for Children以下ELCC)は1998年に設立されました。きっかけは、名古屋の繁華街にある公園で深夜に遊ぶフィリピン人の子どもたちとの出会いでした。当時、ビザの期限が切れているなど、滞在資格がない状態で長期間日本で働く外国人住民が多かったです。そのような親を持つ子どもたちは、日本で生まれても公機関への届け出ができず無国籍状態にあり、公教育を受けることはできませんでした。彼らはほとんどの時間を家の中で過ごし、夜は保護者が働く地域の公園で友だちと遊んでいたのです。ELCCは、そのような子どもたちが安心して過ごし、勉強できる場を提供しようと、緊急避難的に設立されました。

さて、2004年に第1回のステファニ・レナト賞をいただいた時のコメントには、「社会的に片隅に追いやられていた『無国籍状態におかれた子どもたち』に光がさしたことを大変うれしく思います」とあります。

エッセイ NGOの 散歩道 第35回

いつも「子ども中心」の活動を目指して

2002年3月から名古屋市は在留資格(当時は外国人登録)のない子どもたちの就学を認めるようになり、現在は公教育への道は開かれています。現在、ELCCの在校生には、無国籍状態または在留資格がない子はほとんどいません。しかし、依然として、言葉の壁や様々な事情により、地域の学校に行きづらい子は存在しています。ELCCはそうした子どもたちの学びの場であり続けるのと同時に、近年は、子どもたちを地域の公立学校へ送り出す準備の場としての役割を担っています。

レナト賞をいただいた当時の生徒たち(ELCC一期生)は20代後半から30代の大人に成長しました。日本で暮らし、働き、すでに親になった子もいます。当時に比べると、外国につながる子どもたちの教育環境も保護者のニーズも変化してきました。その変化に対応しつつ、これからも子どもたちを中心に据えて、学び・育ちを少しでも支えていければと思います。

国際子ども学校ボランティア 佐原 恵津子

さんぐりあ編集委員がおすすめするモノ・ヒト・メディア情報

NANGOC RECOMMENDS

なんごりこめんず vol.73

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめもの」情報をおよせください。
e-mail: info@nangoc.org
※「NANGOC」とはNAGoya NGO Centerの略です。

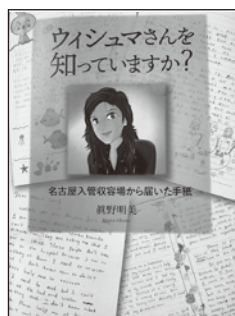
BOOK ウィシュマさんを知っていますか?

眞野明美 著

2020年12月、名古屋出入国在留管理局(名古屋入管)の面会室で出会った二人。窓もない殺風景な小部屋のアクリル板越しに座っていた、ウィシュマ・サンダマリさん(33歳)は「明らかに衰弱」していた。収容4か月に及んでいた彼女は、その後2021年3月6日に、この名古屋入管の中で収容されたまま亡くなった。

この書は、狭い収容施設内から著者の眞野さんのもとに届いた、彼女の手紙を中心に編まれている。2月2日の手紙の冒頭には「わたしぜんぜんだいじょうぶじゃないです」と、ローマ字の分かち書きの日本語で、絞り出すような叫び声が、丸みを帯びた文字で書かれていた。翌日、面会室に現れた彼女は、絶えず吐き気を催すために「青いバケツ」を抱えさせられていた。

名古屋駅からあおなみ線で「名古屋競馬場前」駅(現在は「港北」駅)を降りてすぐの名古屋入管。ここで亡くなった一人のスリランカ女性の声に耳を傾けて、裁判を受けることもなく、塀の中で長期の収容生活を強いられる人々の現実を知ってほしい。



中島正人の
オススメ
風媒社 2021年
1,200円+税

SHOP フェアトレードの小さな店 オゾン

桜井裕子の
オススメ

大曽根にあるフェアトレード店 オゾンは、2020年移転した。玄関に展開された商品は、昨年20周年を迎えたオゾンの歴史と共に、店長(杉本皓子さん)と取引先との信頼関係、さらには生産者まで見えるようだ。それらがぎゅっと詰まった小さな店。

その理由には、時々開催される講座にある。商品の取引先の方が赴いて講師をされる日は、わくわくした。「バルシック」や「ネバリ・バザー口」などの活動の話が聞けて、活動を通して生産されたお菓子やお茶を味わう。衣服なら羽織って実感。ある日は店長自ら講習会。2018年、韓国ソウルで行われたフェアトレードタウン認定式典の話など。今日も見学されたばかりの沖縄カオプロジェクトの話など、店長はいつの時も話に熱がこもる。名古屋のフェアトレード運動をけん引してきた。スーパーに並ぶ「フェアトレード商品!」の文字広告よりずっと正確な情報を言葉で伝えてくれる、納得のいく買い物ができる店だ。

名古屋市北区山田町3-40
(大曽根駅北口から山田天満宮方面へ徒歩約10分)
電話: 052-981-9512
営業日: 木金土日(10:00-17:00)
HP: http://aift.jp/ FB: @fairtradeozone



Nたまのいま

No.45



まえがわ たくみ
Nたま16期生 前川 拓巳さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002～2021年度までの18回で（2004年、2020年度はお休み）、研修を受けた方は264名。のべ145名の修了生がNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今ここで、どんな活動をしているのでしょうか？ 第45回はNたま16期生、前川拓巳さんにお話を伺いました。

ものづくりを通して途上国の可能性に光を当てる

■Nたまに参加する前は

大学ではゼミで社会課題に取り組みました。その一環で大学生協の食堂の売り上げの一部を寄付してアフリカの子どもたちに給食を届ける活動を進めました。卒業後はNGO/NPOへの道も考えたのですが、社会と自分を掛け算したときに、自分が貢献できることやしたいことが明確でなかったため、物流会社に就職しました。

ただ、就職後も休日ボランティアを続けていて、名古屋難民支援室で翻訳ボランティアをしたり、名古屋NGOセンターの単発イベントに参加していました。そして30歳前にもう一度キャリアを見つめなおそうとNたま研修を受けました。

■Nたま講座で印象に残ったことは？

児童養護施設での自主企画が印象に残っています。学習支援のボランティアで現場に数ヶ月かかったのは自分の中で大きかったですね。それまで単発のボランティアをしていましたが、継続的に顔の見える関係性ができたのは良かったと思います。

現場でしかわからない、子どもたちの将来への不安もわかりました。勉強を教えているとき「子どもは親より大事

じゃないからな」とつぶやいた子どもがいました。その子どもが実際に家庭で言われた言葉だと気づきました。その時「僕にやれることは何だろう」と思いました。

日本でも世界でも見渡せば問題は山積しています。自分が何を軸に何を大切にしたいのかは、自分で決めて動く必要があります。学生の時世界に対して何かをやりたい、といったざっくりとした考えしか持っていませんでしたが、今後は「これを決めてやりぬく」ことが必要だと思いました。その当たり前に思えることに気づかされたのがNたまでした。毎回の講座の講師の方から、いろんな角度から知識を与えてもらったなかで「私はこれを大切にしよう、これを軸にしよう」という気持ちが強まりました。

■Nたま修了後は

仕事として継続的にかわりたいと思っていたところ、マザーハウスの山口絵理子社長の講演を聞く機会がありました。バン格拉デシュの革製品、ネパールのシルクなどを製造し、日本国内外41店舗などで販売す

る会社です。途上国から世界に通用するブランドを作りたいという理念や「社会性と経済性の両立は困難だけどもめざしたい」というビジョンに共感して就職しました。

現在は名古屋市内の店舗のスタッフをしています。接客経験はゼロでしたが、1～2年働いて自信がついたところです。ものづくりを通して途上国の可能性に光を当てる、すなわち現地ならではの素材を見つけてそれを加工して、日本や世界の人に見てもらえる商品を一から作るという理念を大切にしています。ネガティブなイメージにとられがちな国々ですが、そこを変えていきたいとの思いを持っています。



（担当：丹羽）

センターの動き

政策提言

2月6日開催JICA中部と中部地域NGOの連携によるシンポジウム「海外ルーツの市民とともにある日本社会」報告

当日は、雪が舞いコロナの感染拡大という悪条件で、急遽、オンライン参加のみとなりました。参加者は、計157名で企業や組合、YWCA、JICA、自治体(国際交流協会など)、大学(学生、教員)、日本語教師、また海外にルーツをもつ市民の参加もありました。

基調講演では望月優大さんは包括的、体系的に外国人労働者の人権と制度の問題について話され、シンポジウムの基調を作ってくれました。

続いて、政策提言委員の佐伯奈津子さんからインドネシア人技能実習生のインタビューによって当事者自身の声を聴くことができました。次に日本ボリビア人協会の山田口サリオさんからは外国人として見られるのではなく、同じ市民として見られたい、また市民の権利がフルに履行できる環境を整える日本社会の義務について話されました。最後に若い世代からフィリピン出身の竹内正直さんがキャリア形成の過程における困難さについて、また、教育機関関係者からの適切なサポートによって、それを乗り越えて夢の実現をされたことが報告されました。

その後、自分たちのアクションを考えるワークショップでは100

名を超える参加がありました。

この取り組みはJICA中部と地域のNGOの定期協議会から生まれ2年余を経て実現し、JICA側NGO側あわせて36名がワンチームとなって運営しました。JICAとNGOという違いを前提に協働し相乗効果を出せた取り組みであったと考えます。意見が違うことを豊かさにとらえ、ワンチームになることができた私たちが、今回の参加者とともに中部地域の多文化共生の課題に取り組むエネルギーとなることができれば幸いです。



ワンチームとなった

(報告:代表理事 中島隆宏)

退職のあいさつ



門田 一美さん

1年間、主にNたま、NGO相談員などを担当させていただきました。緊急事態宣言など、様々な制限のなかでのNたまとなり、はがゆい思いもありましたが、協力団体や講師、食欲に学ぼうとする研修生みなさんの意志に助けられ、無事、修了式を迎えることができました。コロナ禍のため、直接お会いしたり、お話ししたりできた方は少数でした。今後も、名古屋のNGO界隈をうろろする予定ですので、ぜひ一緒にできたらと思います!



加古麻理江さん

4月から約1年間、お世話になりました。主に、Nたま研修に関わらせていただいた経験は、研修の各講座だけではなく運営側の面でも多くを学ばせていただきました。また、長年続いてきた研修の意義も、Nたま生からの声や各講座から、ひしひしと実感しました。不慣れなところや面倒を掛けてしまうこともあったかと思いますが、Nたま研修やNGOセンターに関わってくださるみなさま、短い期間でしたが1年間ありがとうございました!

活動報告カレンダー

2021年8月1日～2022年2月28日

●ネットワーキング

・シーテック クリック募金2021(6～1月)目標2万クリック達成

●コンサルティング

・NGO相談(外務省NGO相談員):8～2月 621件、出張相談(9/16@JICA中部4県推進員意見交換会、12/4@ぼらマッチ、12/11@国際協力カレッジ、2/1@NPOおたがいさ会議)

●情報収集・発信

・会報『さんぐりあ』11月号発行(1,000部)・発行(10/16)

情報発信		8月～2月
ホームページ	センターからのお知らせ更新回数	15
	中部NGO情報ひろば更新回数	13
facebook(フォロワー数1,308人)	更新回数	62
メルマガ(登録数257人)	配信回数	28

●政策提言

・シンポジウム「海外ルーツの市民とともにある日本社会」開催(2/6)
・NANCIS[声明]ロシアはウクライナ侵攻を直ちに停止せよ 発表(2/28)

●人材・活動育成

・NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ2021(Nたま)講座(8/1,8/21,9/18,9/25,10/6,10/16,10/30,11/10,11/21,11/28,12/18,2/5)フィールドワーク(8/7,11/13-14,1/15)修了式(2/12)
・国際協力カレッジ オンライン開催(12/11)
・ニカラグアの会主催「生き方を学んだニカラグア」のオンラインサポート実施(12/19)
・東海地域NGO活動助成金 最終選考会・助成団体決定(2/27)

●運営

・理事会(9/30,11/12,2/15)
・職員会議(8/17,24,31,9/7,14,21,28,10/5,12,19,22,11/9,16,12/7,14,21,28,1/11,18,2/18,22)

外国人ヘルプライン東海	20万円
名古屋学生青年センター	20万円
(特活)東京・垂井	20万円
(特活)平和のための戦争メモリアルセンター	15万円
(特活)わびねず	10万円
NPOあいち国際理解教育ステーション(AIS)	9万円
(特活)RASA-Japan	10万円

●賛助会員(個人)

【更新(賛助会員A)】

加藤克也、篠田英次、稲葉健吾、丹羽輝明、加茂省三、遠山涼子、石井りか、福田正博、田中幸男、蒲池卓巳、尾崎寿光、笠原聡太郎、中島隆宏、三浦哲司、塚田涼子、東憲吾、近田千波、佐藤玲子、貝谷京子、鉄井宣人、梅村紀彦、守屋保美、瀬川義人、鈴木英司、龍田成人、岡田雅宏、鉄井宣人、久野博司、西井和裕、堀川絵美、長町諭

【更新(賛助会員B)】

西川侑里、伊佐次歩、山口大輔、平井英司、森元裕恵、細井和世、株根秀之、佐原恵津子

【団体会員】株式会社シーテック

【新規会員】後藤陽司

●寄付者(物品なども含みます)

【一般寄付など】ステファニー・レナト賞実行委員会、中島隆宏、秋田有加里、滝栄一、丹羽輝明、ニカラグアの会、八木巖、小久保紀子、募金箱

【東海ろうきんNPO寄付システム】伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、加藤勝子、大野博人、後藤文昭、酒井俊輝、水野愛、目加田貴弘、山田志帆、松下和哉、土肥和則

【Nたまサポーター】八木巖、塩田匠弥、春田みな美、松浦史典、栗田佳典、原田篤実、高橋美和子、遠山涼子、青木研輔、夏目亜依、佐藤光、笠原聡太郎、小久保紀子、林滋、西川侑里、高橋美穂、大川元嗣、中島隆宏、中尾さゆり、高木雅成、瀬川義人、轡田容子、吉田英一、廣井修平、堀川絵美、中垣貴裕、谷川毅、青木孝弘、東憲吾、玉村末妃、伊沢令子、イカオ・アコ、竹内由美子、近田千波、松本恭一、吉川典子、鉄井宣人、名嶋聰郎、二角智美、廣井修平、藤岡博孝、林愛里、高野菜、戸村京子

【外貨】八木詠子、堀川絵美、アジア保健研修所、フェアビーンズ、匿名

●アフィリエイト

アマゾン・ヤフー62円/
楽天308ポイント

みなさまのご理解・ご協力に
心より感謝申し上げます



中川運河を渡って、世界中から届いた様々なMissionBox(ミッションボックス)には、その一つひとつに世界が抱える様々な課題が詰め込まれています。BOXを開けて、世界の「今」とSDGs(持続可能な開発目標)を達成するための世界やJICAの取り組みを、見て、触って、体験してみましょう。展示を通して、私たちの身近な暮らしが世界に繋がっていることを体感してください。

体験ゾーンは
楽しく学べる!

地球案内人が
みなさまを
ご案内します。

見どころ
いっぱい!

MISSION BOX

SDGs NAVIGATOR

SDGs DASH BOARD

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

MEET THE WORLD

MISSION BOX

SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES

ACROSS THE WORLD

ACROSS THE WORLD

ACROSS THE WORLD

ACROSS THE WORLD

基本展

SDGs
—未来につながる17の約束—

2022.4.20(Wed)～2022.9.4(Sun)

アクセス：名古屋駅から徒歩13分／名駅・ささしま
開館：10:00～17:00
休館日：月曜・年末年始
(祝日の場合は開館、翌平日が休館)
※現在、なごや地球ひろばは、時間を短縮して開館しています。
最新の開館情報はウェブサイトをご覧ください。



事務局のひとこと

コロナ流行からもう2年以上、海外旅行できずに「はあ〜」そして21世紀になるのにまだ世界で戦争が起きていることに「ふう〜」ため息ついても気持ちはリセットされず、F・リスト「ため息」を聴いて少し落ち着く。(近田)

実行委員会に加わってほしいと小池さんに電話した記憶がある。あれから長い年月がたった。そして運よくレナト賞の最終年も事務局を担当させていただいた。想いのつまった賞の最初と最後に関わることができて感謝。(村山)

編集後記

82号からレイアウトを担当していますが、名古屋にいたのは2010年まで。今は神奈川の逗子在住です。離れていても「さんぐりあ」を通して皆さんとの繋がりが続いているのが嬉しいです。ちなみに逗子市は名古屋に続いて関東で初めてのフェアトレードタウンです。(久)

オンラインでの編集会議が当たり前になりつつあるコロナ3年目。編集会議に限らず、オンラインでのイベントが珍しくなくなりました。ズーム上で何度か目にしていた望月優大さん、名古屋国際センターのイベントで生で拝見したとき、想像よりずっと華奢な姿にびっくりでした。(貝谷)

5月はフェアトレード月間!

5月はフェアトレード月間!
たのしい企画が盛りだくさん♪
抽選会もあるよ!



最新情報はSNSにて!



顔の見える店〜FAIR TRADE 風〜 (ふ〜ず)



〒461-0015 名古屋市東区東片端町49
正文館書店本店2F
TEL&FAX : 052-932-7373
MAIL : huzu.fairtrade2@gmail.com



総会案内

2022年度の定時総会を開催します。オブザーバー参加を希望される方は事前に事務局までお問合せ下さい。
日時:2022年5月21日(土)10時～12時 開催方法:オンライン(Zoom)

発行：特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
会報編集委員：市川隆之、中島正人、貝谷京子、桜井裕子、
内藤裕子、丹羽輝明、村山佳江

協力者：廣井修平

レイアウト：久由紀枝

発行日：2022年4月15日

印刷：山本印刷株式会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX:052-228-8109 URL:http://www.nangoc.org
E-Mail(代表):info@nangoc.org

会費・寄付は以下よりお願いいたします。

①クレジットカード <http://nangoc.org/membership/shien.php>

②郵便振替 (口座番号)00860-5-90855 (口座名)特定非営利活動法人名古屋NGOセンター